

内外動向

第4回日韓中環境アセスメント・ワークショップの報告

松宮綾香

1. はじめに

2003年に始まった日韓中環境アセスメント・ワークショップは2011年から中国も加わり、本年度までの12年間で計9回開催されている。今回、韓国の大田広域市、韓国水資源会社(K-water) Academyにおいて2015年10月15から16日の2日間で「第4回日韓中3カ国EIA会議(4th Korea-China-Japan Tripartite EIA Conference)」が開催された。筆者は大学院生として参加し、口頭発表を行い、エクスカーションに参加した。

本年度の会議はスポンサーであるK-waterからの参加者が多く、韓国から71名、中国から2名、日本から国際交流委員会のメンバー、東京都市大学、東京工業大学の教授、学生を含む7名の合計80名のほり、日韓中3カ国での会議となってから最多人数を記録した。また、発表件数は口頭発表:21本(日本:6本、韓国:12本、中国:2本、ベトナム(ゲスト国):1本)、ポスター発表:21本(韓国:21本)であった。内容は例年に比べ、生活環境や生物多様性についての発表が多かった。

2. 課題別セッション

本会議テーマは「私たちが望む影響アセスメント(The Impact Assessment We Want)」であり、まずIAIA本部理事で香港政府環境アセスメント局のShirley Lee氏により、基調講演としてIAIAのビジョンと影響評価についての講演がなされた。さらに、「持続可能な開発と水資源管理」と題したスペシャルセッションが行われ、韓国からはJong Ho Lee氏(清州大学)が近年EIAの実施や住民参加、ガバナンスが活発になっている韓国における水資源の開発とODA事業を行った際の分析を発表した。日本からは田中章氏(本学会国際交流委員会委員長・東京都市大学)が球磨川荒瀬ダムでのHEPを用いたダム撤去を対象とした生態系定量的評価の事例を紹介し、その可能性と課題について発表を行った(図3)。中国からはWeihong Zhu氏(延辺大学)が国際河川である豆満江を例に河川の持続可能な開発を行う際は、野生生物の生息地管理を増強すること、ラムサール条約湿地に指定すること等の重要性を訴えた。最後にゲスト国であるベトナムから、Le Dang Hoan氏(地域農業環境研究所)がベトナムにおい



図1 第4回日韓中3カ国EIA会議代表者集合写真

て環境 ODA 事業を行った結果とその役割について発表を行った。スペシャルセッションの後は、4つのセッションに分かれ各発表が行われた。各国発表者及び発表タイトル一覧を表 1 に示した。

2.1 セッション I 「開発と影響評価」

セッション I は、「開発と影響評価」と題し、韓国から 2 本、中国から 1 本、日本から 1 本の発表があった。Shirley Lee 氏は香港において頻発する深刻な洪水や影響低減ができることを報告した。Taeyun Kim 氏（韓国環境研究所）は沖合において風力発電用地を選定する際にエネルギー資源と経済面のみを考慮するのではなく、保全地域、景観保護、人間活動、海洋環境、海洋生態系を考慮することを提示した。

本セッションでは各国で行われる開発事業の影響評価の現状、問題点を明らかにし、これをふまえ、新たに考慮すべき評価基準などを報告したものが多かった。

2.2 セッション II 「軍とミティゲーションと放射性廃棄物」

セッション II は、「軍とミティゲーションと放射性廃棄物」と題し、韓国から 3 本、日本から 1 本の発表があった。Chulhwan Kim 氏（韓国道路公社研究所）らによると、現在韓国は都市化が進んでおり、世界の中でも最も人口密度が高い国の一つである。これに伴う、都市における集合住宅と高速道路の騒音問題の現状を示し、騒音評価モデルや評価方法の研究、開発の必要性を発表した。村山武彦氏（東京工業大学）らは、原子力災害後の放射性廃棄物の影響を、災害後の廃棄物問題についての決議という観点から発表を行った。廃棄物問題は DAD (Decide-Announce-Defend) モデルから参加型、適応型プロセスへと変えることの必要性を報告した。



図 2 会場の様子

本セッションでは、人工的に製造される汚染物質の環境影響に関する発表が多く見られ、特に原子力に関する内容など、日本において関心の高いテーマについての研究報告も行われていた。

2.3 セッション III 「生態系と水」

セッション III は、「生態系と水」と題し、韓国から 4 本、日本から 1 本の発表があった。Won-Suk Cheong 氏（韓国水資源会社）らは、洪水調整ダム流域の軍砲撃場による汚染から水域生態系をまもる為に、生態系複合構造物を用いることで汚染を軽減させることができると報告した。また、筆者は、アメリカにおける生物多様性バンキング設立のプロセスに着目し、日本における生物多様性バンキング「山バンキング」導入時の設立プロセスの検証を千葉市において行った結果を発表した。

本セッションでは、開発などを行うことによる問題となる、生態系保全のための提案が多く行われており、日韓共に関心の高い課題であるということが見受けられた。

2.4 セッション IV 「環境計画と国民参加」

セッション IV は、「環境計画と国民参加」と題し、韓国から 2 本、日本から 2 本の発表があった。黄澤滋雄氏（東京工業大学）らは、近年増加傾向にある再生可能エネルギーの一つである、地熱発電に着目し、国立公園内における地熱発電所の視覚による影響評価を行い、原子力政策に対する考えの違いが視覚評価と相関関係があると報告した。Liu Tong 氏（東京工業大学）らによると、経済開発が急速に進む中国において、事業等を行う上で EIA は必要とされているが、情報公開はなく、参加の機会もないのが現状であると、情報公開や住民参加の必要性について報告した。



図 3 田中章氏（東京都市大学）の発表風景

本セッションでは、環境計画を行う上での現状を述べ、今後環境計画を行う上で必要と考えられる住民参加や情報公開等の事項を述べたものが多く見られた。

2.5 ポスターセッション

ポスターセッションとしては、韓国から制度全般、生活環境、生物多様性の大きく3つの分野から21点の発表が行われていた。発表内容としては、生物多様性に関する内容と生活環境に関する内容が多くを占めた。ポスターの展示会場は口頭発表会場前に設けられており、展示者と多くの来場者で盛んな議論が行われていた。

3. テクニカルビジット

16日の会議後にはテクニカルビジットが開催され、K-waterが管理するダムのひとつであるGongjiダムの案内を受けた(図7)。Gongjiダムは公州市を流れる錦江にあり、貯水容量は1550万t、発電能力は3000kwのダムである。また、錦江の川沿

いには、2015年7月にユネスコ文化遺産に登録された朝鮮三国時代に造られた城郭である公山城があるなど、歴史的価値も高く、盛況のうちに終わることとなった。

4. 所感

今回の日韓中3カ国会議は過去4回の中で最も参加者数が多く、韓国からの実務者が多くを占めていた。一方、日本や中国からは大学関係者が多くを占めていたが、今後実務者の参加をより促すことが課題である。今回の発表分野としては生物多様性、生活環境が多くを占めていたが、これは韓国からのK-water関連の実務者が多く参加していたためである。

2016年5月には日本の愛知県名古屋市にてIAIA16が開催される。また、夏以降、第5回日韓中3カ国会議の中国開催が検討されている。この3カ国会議が中心になり、さらにASEAN諸国を含めたEIA会議とする議論もあった。今後、社会人になってもこのような環境アセスメント関連の国際会議に積極的に参加していこうと考えている。



図4 本会議の横断幕



図5 発表会場である K-water Academy



図6 会議中の昼食の様子



図7 K-waterの管理するGongjiダム

表1 発表者及び発表タイトル一覧

セッション名	発表者名	所属	発表タイトル
Special Session: Sustainable Development and Water Resources Management Chair: Myungjin kim (NIER) Takehiro Murayama (TIT)	Jong Ho Lee	Cheongju University, Korea	Water Resources Development and Official Development Assistance
	Akira Tanaka and Hiroto Yagi	Tokyo City University, EA International LLC, Japan	Applying Habitat Evaluation Procedure to Quantitative Habitat Impact Assessment
	Le Dang Hoan	The Institute of Environmental Research for Agriculture Countryside, Vietnam	Role and Result of Environment ODA in Vietnam
	Weihong Zhu	Yanbian University, China	North Korea Development and EIA Focus on Wetland Ecosystem Survey in Tumen River Basin
Session I: Development and Impact Assessment Chair: Shairley Lee (HIEIA) Jon-Gwan Jung (CNI)	Shirley Lee	Director of IAIA and Hong Kong Institute of EIA, China	Flood Prevention Projects in Hong Kong as Climate Change Resilience Measures
	In-Chul Bae and Chung-Ki Lee	Korea Expressway Corporation Research Institute and Korea National Open University, Korea	How Much are People Willing to Pay for Installing Soundproof Walls?
	Nyandaro Mteki, Takehiko Murayama and Shigeo Nishikizawa	Tokyo Institute of Technology, Japan	An Analysis of Social Impacts Induced by a Development Projects in Tanzania: a Case of Airport
	Taeyun Kim	Korea Environment Institute, Korea	A Study for Offshore Wind Farm Site Selectio
Session II: Military, Mitigation and Radioactive Waste Chair: Sang Hee Lee (NIER) Shinsuke Otaguro (EA-Intl)	Chulhwan Kim, Taesun Chang and Hyejin Kang	Korea Expressway Corporation Research Institute, Korea	Noise Mitigation Measures on Korea Highway
	Takehiko Murayama, Shuta Komoto and Shigeo Nishikizawa	Tokyo Institute of Technology, Japan	Impact of Radioactive Waste after Nuclear Disaster: Controversy on Siting Process of Disposal Facilities
	Bumhan Bae, Bumjoon Kim, Ahreum Lee, Junghyun Cho, Wonchul Choi and Hanyoung Jang	Department of Civil & Environmental Engineering, Gachon University and Waters Korea	Behavior of Explosive Compounds (TNT and RDX) at a Military Shooting Range in Korea
	Sang-Pyo Hong	Cheongju University, Korea, Korea	Hazard Analysis of Biological Products Manufacture at Korea Agro-industrial Complex
Session III: Ecosystem and Water Chair: Akira Tanaka (TCU) Changwan Seo (NIE)	Jungsu Park James R, Hunt, Woosuk Lee, Sangchul Hwang and Kiho Gang	K-Water and Berkeley, Korea	Management of Fine Sediments Considering Water Quality and Aquatic Ecosystem in Streams
	Won-Suk Cheong Soo-Young Park, Hyeon-Cheol Kim and Han-Joong Kim	K-Water, Korea	A Case Study on mitigation of Contaminated Military Gunnery Range in the Catchment Area of Flood Control Dam Using Eco-complex Structure
	Sang Hee Lee, Soo Hyung Lee, Jiyoen Kim, Jaeyeop Whang, Youngdae Ji and Seungju Whang	Geum River Environmental Research Center, National Institute of Environmental Research, Korea	The Changes in Emission Properties of Nonpoint Source Pollutants since 1995 in Chungcheong Region, Republic Korea
	Ayaka Matsumiya and Akira Tanaka	Tokyo City University, Japan	The Study on Development Method of Plan Design in "Satoyama Banking" : Investigation of Prospectus
	Taehoon Kim, Kwansoo Seok, Youngmi O, Yunduck Kim, Byungsoo Park, Taehee Kwon and Choeljin Kim	Seoul Metropolitan regional division, K-Water, Korea	The Effect of Drought to Source Water Quality and Water Treatment Process in the Lake Paldangho
Session IV: Environmental Planning and public Participation Chair: Sangil Hwang (KEI) Shigeo Nishikizawa (TIT)	Shigeo Nishikizawa, Kenta Tsubakura	Tokyo Institute of Technology, Japan	Tourists' Evaluation on Visual Impacts due to a Geothermal Power Plant in National Park
	Liu Tong, Shigeo Nishikizawa and Takehiko Murayama	Tokyo Institute of Technology, Japan	Information Disclosure and Public Participation in Chinese EIA System
	Jinki Kim et al	Kongju National University, Korea	Landscape Performance and Sustainable Landscape Design: Case Study of Stormwater Management Design
	Jong-Gwan Jung	Chungnam Institute, Korea	A Direction of Mutual Nexus Planning between National Land and Environment